

新聞形式の「新プリ」 ワークシート実践

樗木厚 | 大阪市立今津小学校

1. マインドマップで要点整理

高学年の理科指導で一時期、マインドマップを推奨している時期があったように思う。当時は、「余計な手間が掛かる」程度に受け止めていたが、実はマインドマップには汎用性があり、低学年児童にも有効だとわかった。ひらがなを習ったばかりの1年生でも、単語を線で結べば、内容を整理できるからだ。

特に国語科・道徳科の長文の読解や、考察に効果がある。線で結ぶだけでなく、矢印や○×を使うと、尚のことわかりやすくなるのだ。試しにマインドマップを使わない板書に変えたところ、子どもたちからは「前の方がわかりやすかった」との声が上がった。

2. 「新プリ」で伝え合おう

「新プリ」とは「新聞形式のワークシート」のことだ。一番の特徴は「だいじなことを冒頭に書く、点にある」。「読み手を意識したわかりやすい文章を書く、ことに重点を置いている。読み手は同時に、書き手でもある。後で読み返して、内容がすぐにわかるようにしたい。

「ないよう、は、マインドマップで書く。慣れてくると、マインドマップ欄を縮小してそこに野線の入った「新プリ」も選べるようにしている。発達段階を考慮した工夫だ。高学年で4年間実践した成果ともい

える。今回は1年生の実践なので、ヒントになる言葉を書き入れた形式にした。これも工夫の一つだ。マインドマップに「単語、を書くのか」「文章、書くのかは自由だ。そこも子どもの発達段階に合わせて選べるようにした。

3. 絵や図も使って

最近の国語科学習では「まとめ」の代わりに「ふりかえり」をする。しかし学んだことを言葉で伝え合う活動は重要である。補助的に「絵」や「図」があってもよいと思う。

私自身、板書には矢印のような記号や絵文字のような記号も書いている。子どもたちには「ノートは板書の通りに書くのではなく、自分が読みやすいように書く」指導をしている。

4. おわりに

これまでは「書く」指導に重きを置き、「マンガで小学国語力アップ」(浪速社)という本も出版した。また自作の童話で、読解指導にも力を入れてきた。次なる一手が、まとめる力であり、そのためのツールが「新プリ」だ。

元新聞記者の方と二人三脚で開発を続けている。「新プリ」は子どもの反応を取り入れて改良を続ける「進化し続けるワークシート」である。具体的には「メモ欄が欲しい」「理解度がわかるように、色を使える工夫」などがあった。

結局は「子どもに教える」ことは「子どもに学ぶ」ことなのだと、日々痛感している。

